

広告

企画・制作 読売新聞東京本社広告局

第4回 大賞決定

染めQ presents 再生デザイン大賞

「モノを大切に作る心」をテーマに、今回も、愛着のあるモノ・今まで捨てられなかったモノをさらに長く使えるモノに生まれ変わらせた数多くの作品が集まりました。

大賞

賞金 50万円

「思い出ズボンが日傘に大変身」

石川県 中谷 ふさのさん

着る物すべて(洋服・編み物)帽子・バッグ・アクセサリーetcなんでも作って楽しむことがライフワークです。しかし日傘は未経験。息子たちが履いていた懐かしの中学時代の制服(夏ズボン)を日傘に再生しました。表布は6枚しか取れず、残り2枚は剥ぎ、チュールでカバー。刺繍は、工業用刺繍糸をかぎ針で鎖編みにした長いひもを作り、花と根の図案に縫いとめました。シェル(111個)のブレードは、時間がかかり苦勞しました。刺繍は、息子たちの花(夢)が咲くように願いを込めました。心を込め、手間暇かけて物を作る。完成した時の喜び・感動・感激は、かけた時間に比例する。なんて素敵なことでしょう。だから手作りは私の生きがいです。



元にした物品▶
息子たちの中学時代の制服(夏ズボン) / 工業用刺繍糸

最優秀賞

賞金 20万円

「REd straw chair」

学生部 神奈川県 真野 彰子さん

冷たい飲み物に浮かぶ真っ赤なストロー。私たちの喉を潤すと共に、ウキウキと楽しい気持ちにさせてくれます。しかし、衛生的な問題から、このストローが再生されることはほとんどありません。私のアルバイト先のカフェでは、1日に何百本という数のストローが捨てられています。そこで、このチャーミングなストローを、飲むときに感ずる、心が躍るような何かへ再生させたいと思いました。使用済みのストローを1本1本丁寧に洗浄し、強度のある六角形に繋ぎあわせ、キッズチェアを製作しました。



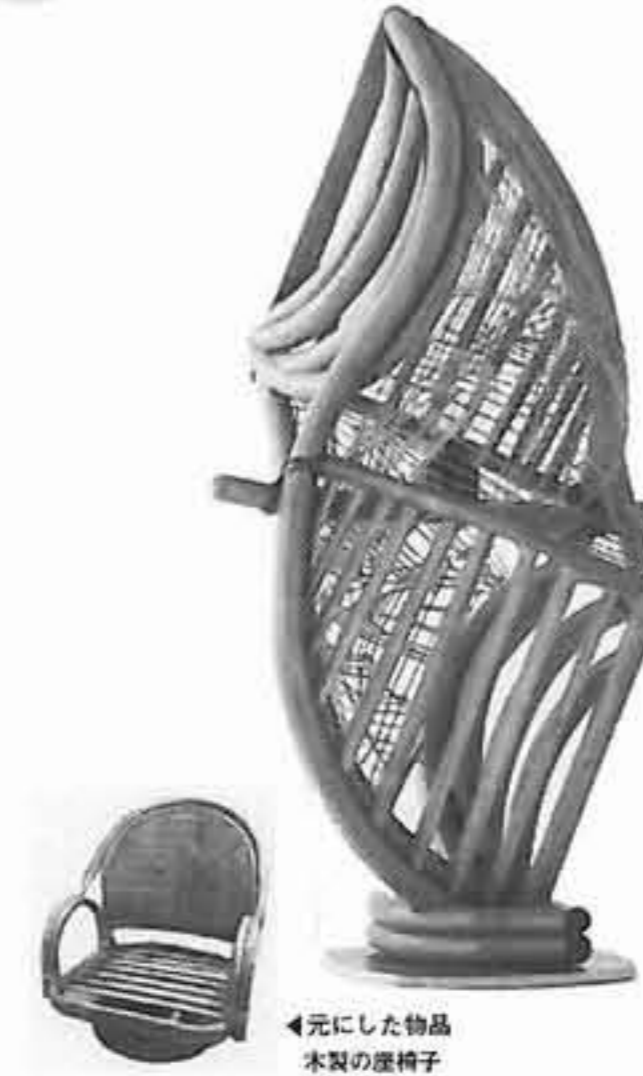
元にした物品▶
ストロー

賞金 20万円

「面影から光へ」

一般部 東京都 須合 芳江さん

足の悪い祖母が使っていた座椅子を用いて照明器具を作りました。この椅子に座り歌を歌いながら家族のくつ下の穴を繕いで、明るく家族を支えてくれた祖母のような存在に甦らせたいと考えました。木のぬくもりと温かな光は祖母の印象と重なります。それだけではなく「もの」には記憶が宿ると祖母に教わり、解体する際に木の重みや匂いから祖母がいた証が確かに刻まれていることを感じました。祖母へ最良の恩返しになることを願います。そして、これからもこの照明が家族を明るく照らしてくれます。



元にした物品▶
本製の座椅子

優秀賞

学生部 「It's my tube」

石川県 大津寄 信二さん

一般部 「福寿」

神奈川県 千田 百子さん

協賛社賞

学生部 「思い出の光」

東京都 畑瀬 真理子さん

一般部 「伯母の着物」

東京都 齋藤 美恵子さん

審査員コメント

(順不同)

株式会社染めQテクノロジ会長

菱木 貞夫氏

テキスタイルデザイナー

須藤 玲子氏

社団法人 東京都服飾学校協会 常務理事

二宮 柊子氏

読売新聞東京本社 編集局 生活情報部長

福士 千恵子

「モノを大事にする」という想いが、美しく、きれいに反映されている作品が多かった。創作への情熱や、元の素材への愛おしさも感じられた。

元の素材を大事に考え、丁寧に時間をかけて創作してきた姿が目に浮かぶ作品ばかりだった。多くの作品に、元の素材から作品への「発想のジャンプ」が見られた。

古いモノに、こんなにも新しい息吹を与えることができるのだと感動した。一人ひとりの人生のストーリーが、作品に盛り込まれているところも面白かった。

家族に関連する社会問題が多い昨今、作品を介して人と人がつながっていくように感じた。作品にすることで、思い出が劣化しないことも新しい発見だった。

主催：読売新聞東京本社広告局 後援：日本テレビ放送網、読売テレビ放送
協力：(財)日本ファッション教育振興協会、全国服飾学校協会、(社)東京都服飾学校協会 協賛：染めQテクノロジー

受賞した全作品を公開中！ www.yomiuri-saisei.jp